

開講科目名 Course	企業法研究 (B) / Corporation Law (B)
時間割コード Course Code	13110
開講所属 Course Offered by	法学研究科修士課程 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2022年度 / Academic Year 後期
曜限 Day, Period	他 5
開講区分 semester offered	後期 / .
単位数 Credits	2.0
学年 Year	1,2,3,4
主担当教員 Main Instructor	美濃羽正康
科目区分 Course Group	企業関係法科目群
教室 Classroom	オンライン授業
講義形式 Lecture Style	講義科目
担当教員名 Instructor (担当教員所属名 Affiliation)	美濃羽正康 (法学部)
授業の目標	企業法研究(B)に引き続き、株式会社法の基礎的な知識を習得することを目的とする。
授業の概要	<p>本講義はオンデマンド方式で行う。</p> <p>企業法研究(A)が株式会社の組織およびその運営に関する事項を中心に扱ったのに対し、企業法研究(B)では、主に株式会社の設立や企業再編行為を扱う。その際、企業法研究(A)で修得した基礎的な知識が会社設立、企業再編行為とどのように関わってくるかを学習する。</p>
評価方法	毎講義ごとの課題と、期末レポートで評価する。
教員の指導に従わない以外の事由 による失格基準	特になし

授業計画	<p>1回 会社の権利能力と目的の範囲 最判昭和27年2月15日 民集6巻2号77頁</p> <p>2回 会社の政治献金 最大判昭和45年月24日 民集24巻6号625頁</p> <p>3回 法人格否認の法理 最判昭和44年2月27日 民集23巻2号511頁</p> <p>4回 財産引受けの無効の主張と信義則 最判昭和61年9月11日 判時1215号125頁</p> <p>5回 他人名義による株式の引受け 最判昭和42年11月17日 民集21巻9号2448頁</p> <p>6回 相続による株式の共有 最判平成2年12月4日 民集44巻9号1165頁</p> <p>7回 株主平等の原則 最判昭和45年11月24日 民集24巻12号1963頁</p> <p>8回 譲渡制限株式の評価 大阪高裁平成元年3月28日 判時1324号140頁</p> <p>9回 他の株主に対する招集手続きの瑕疵と決議取消しの訴え 最判昭和42年9月28日 民集21巻7号1979頁</p> <p>10回 代表取締役の代表権に対する制限 最判昭和40年9月22日 民集19巻6号1656頁</p> <p>11回 取締役の注意義務と経営判断原則 東京地裁平成16年9月28日 判時1886号111頁</p> <p>12回 取締役の競業禁止義務 東京地判昭和56年3月26日 判時1015号27頁</p> <p>13回 取締役の監視義務と第三者に対する責任 最判昭和48年5月22日 民集27巻5号655頁</p> <p>14回 重要財産の譲渡と特別決議 最判昭和40年9月22日 民集19巻6号1600頁</p> <p>15回 会社の新設分割と詐害行為取消し 最判平成24年10月12日 民集66巻10号3311頁</p> <p>*扱うテーマおよび判例は変更することがある。</p> <p>第1回 指名委員会等設置会社・監査等委員設置会社</p> <p>第2回 会計監査人・会計参与</p> <p>第3回 株式会社の設立手続き</p> <p>第4回 株式会社の設立をめぐる問題(1)</p> <p>第5回 株式会社の設立をめぐる問題(2)</p> <p>第6回 会社設立に関する責任・設立無効</p> <p>第7回 会社の基本的事項の変更(総論)</p> <p>第8回 合併</p> <p>第9回 会社分割</p> <p>第10回 株式交換・株式移転・株式交付</p> <p>第11回 組織変更</p> <p>第12回 会社の解散・清算</p> <p>第13回 持分会社(1)</p> <p>第14回 持分会社(2)</p> <p>第15回 まとめ</p>
テキスト	弥永真生著 リーガルマインド会社法 第14版 有斐閣 最新の六法
参考書	適宜、紹介する。 最新の六法
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	電子メールおよびGoogleクラスルームのストリーム機能を利用して対応する。
フィードバックの方法	電子メールおよびGoogleクラスルームを用いてフィードバックを行う、
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	事前に配信する資料・判例情報に基づき、各自に資料検索をしてもらい事前学習を行ってもらう。 また、復習については、毎回配信する課題に取り組み、返信する必要がある。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標(1~10)	
SDGs 17の目標(11~17)	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	